

2022年度募集「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

募集対象	重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動。
募集期間	2021年7月30日～2021年9月24日
応募数	22件
採択事業数	8件
助成金総額	計 10,775,865円
活動期間	2022年4月1日～2023年3月31日
助成選考委員会	本テーマに関して専門的知見を持つ4名の助成選考委員（当財団理事 1 名と外部有識者 3 名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長より

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、今回で7 目の実施となります。助成選考委員会にて厳正に審査を行い、今年度は例年よりも多い8件を採択し、助成総額も10,775,865円としました。今回は、本助成に初めて申請された団体が多く、採択された半数が新規団体であることは、この助成の認知の広がりを感じることができ、嬉しく思います。

今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- ・ モデル性：他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- ・ 地域との連携：病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- ・ 継続性：助成終了後の事業継続の見通しがあるか
- ・ （2021年度助成団体について）2021年度の活動からの発展性があるか

各団体がコロナ禍においても重い病気を抱えた子どもへの支援を絶やさぬよう試行錯誤を重ねておられる中で、事業の目的と展開が明確で、事業の実施と発信により幅広い方々への波及効果が見込まれる団体を助成対象としました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

今回採択に至らなかった申請については、概ね以下のような傾向が見られました。

- ・ 本助成の主旨・支援対象と合致しなかった。
- ・ 実態の把握不足、課題の捉え方が一般的など、解決すべき課題の焦点が絞りがちでなかった。
- ・ 解決したい課題と解決方法（実行項目、費用、スケジュール）の一貫性が読み取れなかった。
- ・ 事業内容に拡大すべきモデル性が認められなかった。

採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっていていただくことを期待しています。また、当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広がることに寄与する活動や、団体同士の情報共有・学びあい・連携に資する取り組みを、積極的に進めていきたいと考えています。

2021年12月
公益財団法人ベネッセこども基金
理事・助成選考委員長
耳塚寛明

助成団体及び事業内容

※団体名 50音順

	団体名	事業名	助成額	所在地	選考にあたっての 評価点
1	一般社団法人 チャームケア	チャームケア研修	¥1,462,000	大阪府	・当事者がオシャレを楽しむ講師になるというモデルは、病児の療養期間が伸びつつある中で、自己肯定感向上と病気の受容を生み出す新しいタイプの活動になることを期待します。
2	公益社団法人 日本環境教育フォーラムジャパン GEMSセンター	病気の子どもたちが、いつでもどこからでも体験的な学びにアクセスできるプラットフォームづくり事業	¥1,617,000	東京都	・実験などの体験的学習が弱点であった病児教育において、病院ニーズを把握した上で、実績のある貴団体が取り組む意義を評価しました。 ・動画に加え、周囲の大人も関わりながら、子どもの主体的な学びが生まれることに期待します。
3	一般社団法人 北海道こどもホスピスプロジェクト	命を脅かす病気を持つ子どもと家族が地域の中で学びを通して豊かに生きることを支える仕組みづくり	¥1,360,540	北海道	・これまでの学習会やイベント開催の積み重ねを活かして、居場所と学びの機会の提供に踏み出すことは意義を感じます。イベントの内容も具体的に評価できます。 ・交流のみに終わらせることなく、学びの視点を意識し深める活動を期待します。
4	認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	多職種連携での支援事例を伝え広めるWEBアウトリーチ事業	¥1,000,000	岡山県	・学校現場と病気の子どもたちの支援現場の状況をよく捉え、アイデアに満ちた新しい取組みとして意義を評価しました。GIGAスクール構想を活用して全国に発信されることを期待します。
5	特定非営利活動法人 未来ISSEY	香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業	¥892,000	香川県	・コロナ禍でもグッドブラザーの活動など、着実な支援を行っており、活動の継続が可能になる自主財源を獲得する体制づくりを期待しています。
6	勇者の会	小児がん患者に対する学習支援および心の発育のサポート	¥1,302,000	北海道	・北海道で子どもに寄り添った活動を行っており、現在の活動を、今後も続けられるよう、組織の基盤強化と自主財源の獲得体制づくりに期待します。
7	認定特定非営利活動法人 横浜こどもホスピスプロジェクト	乳幼児期のLTCの子どものインクルーシブ教育・保育の推進と橋渡し支援モデルづくり事業	¥1,876,795	神奈川県	・乳幼児期のLTCの子どもの教育支援という分野において、新設ホスピスで地域や専門家等との関係者と連携して行う取組みが他団体のモデルとなることを期待しています。
8	認定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもの創作・表現の機会を提供する「こどもアーティスト」ワークショップ	¥1,265,530	愛媛県	・病気の子どもたちの体験的活動のモデルになる可能性を評価します。 ・取組みの継続性やアンケートと報告会を行ったあとの展開にも期待します。

【団体名】

一般社団法人チャームングケア

【URL】

<https://charmingcare.org/>

【申請事業名】

チャームングケア研修

【メッセージ】

①団体の紹介

チャームングケアを広め、子どもたちの生活を豊かにする。病児や障害児に「可愛い」や「かっこいい」を届け、子どもたちと家族の豊かな生活文化の実現を目指します。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

チャームングケア研修：

2020年から継続して行っている、音声配信事業のゲストで今まで出演いただいたプロフェッショナルの方々にご協力を得る形で講義を展開。一人でも多くの方に協力者になっていただくために、医療従事者や教育関係者、理美容関係者の方々を対象に、オンラインにてチャームングケア研修を受講していただき学びを深めていただきます。最大の特徴は、病気や障害を経験した子ども自身も講師となって研修を行う点です。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

病気や障害を経験した子ども自身が講義をすることによって、子どもの自己肯定感の底上げや、「講師になる」という新たな目標を立てることにより、病気や障害の受容を子ども自身が知らず知らずの間に身につけ、その後の人生において生きづらさを感じにくい道筋を作っていくのではと考えています。

【団体名】

公益社団法人日本環境教育フォーラム ジャパンGEMSセンター

【URL】

<https://japangems.org/>

【申請事業名】

病気の子どもたちが、いつでも・どこからでも体験的な学びにアクセスできるプラットフォームづくり事業

【メッセージ】**①団体の紹介**

カリフォルニア大学で開発された科学・数学の体験学習プログラムGEMS（ジェムズ）*の日本における普及とリソースセンターとして2001年に設立。以来、教育機関、行政、企業や他NPOやNGOと連携しながら、体験をベースにした科学・数学学習によって基礎学力を身に着けるとともに、自ら考え、学ぶ姿勢を育てるワークショップを展開しています。

* Great Explorations in Math and Science（科学と数学の偉大な冒険）＝カリフォルニア大学バークレー校ローレンスホール科学教育研究所で1980年代より研究開発されている幼児から高校生を対象とした科学・数学領域の参加体験型プログラム

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

病気の治療のために長期入院中、あるいは入退院をくり返す子どもたちにとって、継続した学びの機会を得ることに困難です。特に実験を始めとした体験的な学習は、病院に持ち込める備品に限られるなど実施が難しいとされ、コロナ下においては外部講師を招くこともできず停滞しています。そのような状況に対して、オンラインで体験型のワークショップを提供していますが、当日の体調や急な検査で参加できない子が毎回いらっしゃいます。

そこで、団体HP上に無料の実験動画を掲載するページを作成していつでも・どこからでも観られるようにし、すべての子どもたちが安心して楽しめる学びのチャンスを提供していきます。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

GEMSでは、子どもたちが自分の想像力と創造力を使って、自分たちで実験を企画し話し合い、結論を導き出していくことを大切にしており、その姿は好奇心と探究心をたっぷり持った科学者そのもの。身近なものを使ってできる実験のため、先生や保護者の方が材料を準備しやすく、子どもたちの状態に合わせてアレンジもしやすいのが特徴です。

算数やアート、環境、自然科学や物理、化学など幅広いジャンルのプログラムがあるので、子どもたちが外の世界に興味をもち、未来への楽しみが増えるようなコンテンツを配信していきます。

【団体名】

一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト

【URL】

<https://www.h-chp.org/>

【申請事業名】

命を脅かす病気を持つ子どもと家族が地域の中で学びを通して豊かに生きることを支える仕組みづくり

【メッセージ】**①団体の紹介**

「北海道こどもホスピスプロジェクト」は2015年7月に任意団体を立ち上げ2016年1月に札幌で、3月には旭川でシンポジウムを開催したことを発端とし、2017年4月に一般社団法人化し今にいたっている。施設としてのこどもホスピスはまだないものの、Start smallの精神で、定期的に行事を行うなど今我々にできることを丁寧に実践している。今まで計7回の講演会を開催しこどもホスピスの理解啓発に努め、家族としての時間を大切にもらうための定期的なイベント（保護者向けお料理教室&ランチ会、旭山動物園への小旅行、夏祭り、BBQ、カヌー体験、ハロウィンイベント、クリスマス会、リトミック遊びなど）を実施、地域の関係団体との連携をはかることを目的として「あそびかた研究会」を実施しながら、札幌にまずは本拠地を設置すべく活動を続けている。また、2019年にはNPO法人横浜こどもホスピスプロジェクトとの共催による第2回全国こどもホスピスサミットin北海道開催し4月28日を「日本こどもホスピスの日」、4月28日～5月5日までを「日本こどもホスピスウィーク」とする北海道宣言を出し閉幕した。そしてNPO法人横浜こどもホスピスプロジェクトとの共催による「こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成研修会」札幌および旭川にて開催、NPO法人しぶたねとの共催による「シブリングサポーター研修」を札幌にて開催するなど、他の病気や障がいとともにあるこども、きょうだい、保護者等を支援する団体とのつながりを深めながら活動をすすめている。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

今回の主な事業としては2つあり、1つはユニバーサル野球大会の開催（札幌、旭川）、2つ目が小児がんの子ども、そのきょうだいを対象としたサマースクールの開催（札幌、旭川）となる。ユニバーサル野球（<https://universalbaseball.world/>）は重い障がいとともにあるこども達も参加できる大型野球盤となっており、運動あそびになかなか参加しにくい子どもたちも主体的に関りをもつことができる。障がいの有る無しに関わらず子どもたちが遊びを通して心のバリアフリーを身に着けていくことも目的としている。また、2つ目のサマースクールに関しては、これまでのアンケート等から、退院後の経験できる幅の狭さを指摘する声が多くあったことから、夏休みの自由研究や小児がん経験者の多くが課題を抱える早期老化防止のための運動プログラムや野外体験、企業訪問等を取り入れた2日間にわたる学びの場を提供していきたい。このプログラムには運動部に所属する高校生もボランティアで関わるようになっており、高校生にとっての学びの場としても期待される。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

北海道という土地柄、面積が大変広く全道のカバーするには今回の事業ではいたっていないが、今回は札幌、旭川の2か所にて事業を集中的に展開し、病気や障がいを持つ子どもたち、きょうだいさん、そしてそれにかかわる高校生の生涯学習を実践していきたいと思っている。そして再来年度以降は函館、帯広など道内各都市での事業展開につなげていきたい。

【団体名】

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

【URL】

<https://www.pokesapo.com/>

【申請事業名】

多職種連携での支援事例を伝え広めるWEBアウトリーチ事業

【メッセージ】

①団体の紹介

私たち認定NPO法人ポケットサポートは岡山市を中心に、小児がんや心疾患などの慢性疾病を抱える子どもたちの支援を行っています。「病気を抱える子どもたちが自分らしく将来に希望を持って暮らせる社会」をビジョンに掲げ、学習支援や復学支援などの「環境を作る」、病気を抱える子どもたちやその家族へのピアサポートや専門家たちとの連携の中で「生きる力を育む」、子どもたちを支える人たちをコーディネートすることや理解者や支援者を増やし、彼らの思いを事業として届けるために「人や気持ちをつなぐ」という3つのミッションで日々活動を行っています。ひとつのNPOだけでは解決できない、個別性の高い子どもたちの要望や課題に対応するため、教育委員会や保健所などの行政、医療機関、学校など様々な機関連携の中で支援を行っています。小児期から慢性疾病を抱えている人たちを中心に団体運営を行っていることも特徴です。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

<解決すべき課題>

- ①県内の医療機関や学校など多職種と連携した支援事例の積み上げ
 - ②地域や年齢、病気等の個別性の高い病弱児支援における事例共有や教職員が勉強できる場の不足
 - ③コロナ禍による面会制限により当事者家族と新たにつながる機会の減少
- 上記①～③の重点課題を解決するために下記の実行項目を進めていきます。

実行項目A：[地域の多職種と連携して取り組む支援事例蓄積]

2021年度の助成事業として実施している地域連携支援から、さらなるセキュリティ向上や個人情報保護を徹底し、個別の相談事例や支援事例を蓄積していきます。また、連携する行政も事例の閲覧や検索が可能になることで医療や教育を横断した実践ノウハウを幅広く伝え広めることができ、これまで以上に多職種が連携して地域で暮らす子どもと家族を支える岡山モデル構築を目指していきます。

実行項目B：[支援対象者へのWEBアウトリーチと支援事例の情報発信]

病気療養中の子どもたちへ幅広く支援を届けるため、「難病 子ども」「小児 白血病」「小児がん 復学支援」などをGoogle検索した際に、WEBページを検索結果の上位に表示させ、団体とつながるきっかけを作ります。実行項目Aの事業で蓄積された支援事例を、学校現場の先生向けのお役立ち情報としてまとめ、WEBサイトにて公開します。さらに、岡山県内のすべての学校へ、印刷したものを郵送・配布し返信ハガキによる評価や今後の課題等を情報収集していきます。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

一人ひとりの子どもや家族に寄り添いながら、岡山市保健所や教育委員会、各医療機関と協力して、入院中から退院・復学後まで継続的な支援を展開していきたいと考えています。また、地元の学校と連携しながら入院中の高校生が卒業式にZOOM中継で参加できるようにスタッフを派遣するなど、ICTを活用した支援活動のノウハウや技術力をさらに高めていきます。オンライン授業が普及する一方で不安や悩みを抱える家庭や学校現場・医療機関や教育委員会などの各分野に情報提供を行い、一人でも多くの子どもたちが将来に希望を持って自分らしく暮らせる社会づくりに寄与していきたいと思っております。

【団体名】

特定非営利活動法人未来ISSEY

【URL】

<http://www.miraiissey.com/>

【申請事業名】

香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業

【メッセージ】**① 団体の紹介**

未来ISSEYは香川県で病気を抱える子どもとその家族が笑顔で治療できるように様々な支援を行っています。

入院、療養をしている子ども達と地域の学生をつなぎ、交流や勉強の支援を行ったり、その学生の育成事業、「会いたい」を繋げるコミュニケーションロボット貸出し事業、同じ経験をした経験者が相談にのるピアサポート事業、交流イベント開催、対象者の抱える問題や取り巻く環境を伝える啓発活動、SNS発信等で「希望をもって治療に取り組むことができる香川県」の実現を目指し活動を行っています。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

入院や療養をしている子ども達や家族は病気や治療への不安や苦しみの中、会いたい人に会えない、したいことができないといった辛い環境にある中、コロナ禍となり、増々厳しい状況となっています。未来ISSEYは、2020年から香川県内で長期入院や療養をしている子ども達に対し、交流・学習支援を行う「チームグッドブラザー（TGB）」を立ち上げ、コロナ禍では学生達による手作り問題集をきっかけとして、オンラインでの学習・交流支援を行っています。病院との連携も深まっては来ているものの、まだ確固とした支援体制が出来上がっているとは言い難く、今後も継続しての支援、根付かせていくために体制の強化を図っていくことが必要です。そのために、TGBに参加するスタッフ・ボランティア育成研修の実施をし、対象者への支援を単発ではなく継続して行っていくことが必要と考えます。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

今回も採択いただきありがとうございます。今後も対象者に継続的な支援をしていけるよう、研修会では学生のスキルアップはもちろんのこと、積極的に参加してくれるような内容を考えていくことが必須と感じています。特にコロナ禍において学生がやりがいを感ぜられるような環境を作っていきたいと思えます。そして対象者が未来ISSEYの支援を必要とする際にはすぐに支援できるように寄り添っていけるような体制の確立を図っていきたいと思っています。そして今後は自立してこの活動を継続できるようにしていきます。

【団体名】
勇者の会

【URL】
<https://sapporo-machizukuri.com/org/4493>

【申請事業名】
小児がん患者に対する学習支援および心の発育のサポート

【メッセージ】
①団体の紹介

勇者の会は、小児がんの子ども達とその家族を支援することを目的として活動しています。心身のケア、学習サポート、季節イベントの開催、課外活動、保護者の交流などを行っています。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

子ども達の体調に応じ、本人・ご家族と学習サポートのプログラムを組み、入院によって遅れた学習のサポートをしています。北海道では、病院内でのサポートは存在しますが、退院後の学習に対するフォローのシステムは薄く、学校の進度に追いつけず不登校になってしまうケースも少なくありません。また、いじめや心の病、感染症のリスクによって不登校になる場合も多数存在します。勇者の会では、心に寄り添ったサポートにて学習の遅れを取り戻す活動をしています。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

新型コロナウイルス感染症が流行する前から様々な感染症の恐れを踏まえ、LINE電話やzoomにてサポートを行ってまいりました。今年はそこに4台のタブレット(黒板とzoomの一体化出来る機能付き)を用い、より良い環境でチャレンジしていきたいと考えております。学校の教科書とワークブックのみで遅れた勉強を取り戻す事を目指し、感染症に罹ってしまうと普通の子どもより重症化しやすい為出来る限りオンラインにて学習サポートを行い、幼児にも幼稚園に行けないと諦めるのではなくzoomでも出来る事で幼稚園感覚を楽しんでもらいたいです。またオンラインでは教えきれない勉強の際はレンタルルームにて学習サポートを行い、その際にはお話などをして先生との親睦を深められるようにしています。また学校の長期休暇を利用して行う勉強合宿では遅れた勉強を集中的に行ったり、ゲーム大会では先生と親睦を深めてもらったりします。また毎月報告会議をして記録に残し、保護者のzoom面談や三者面談をして長期サポートを目指し、その生徒がどう社会に出て行けるかを一緒に考えながら高校卒業までサポートいたします。また、入院を繰り返し欠席が増える中高生には進学への影響が一番の問題と考え、ご家族と学校の間にも勇者の会も入り、提出物やオンラインでの授業の可能性など色々な提案をしていく事も重要と考えております。病気になったからといって諦めるのではなく、出来ることを少しでもチャレンジしていきたいと考えております。勉強を中心とした団体は北海道にはまだないので、これからも一生懸命活動をして行きたいと思っております。

【団体名】

認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト

【URL】

<https://childrenshospice.yokohama/index.html>

【申請事業名】

乳幼児期のLTCの子どものインクルーシブ教育・保育の推進と橋渡し支援モデルづくり事業

【メッセージ】**①団体の紹介**

横浜こどもホスピスプロジェクトは、医療・福祉制度の狭間にいる生命にかかわる病気（LTC）の子どもと家族を心理的・社会的に孤立させず、豊かに生きることを支えるために、LTCの子どもと家族が、地域のなかで安心して過ごせる居場所づくりとして、コミュニティ型こどもホスピスである「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」の運営、また地域のなかでつながりを感じて生きられる地域ネットワークづくりに取り組んでいます。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

わが国では、義務教育年齢ではないLTCの子どもが教育を受けられる機会を保障するための制度や取り組みは立ち遅れています。保育所・幼稚園におけるLTCの子どもの教育および保育は、通常に加えて、個別の疾患や病状に応じた心身への配慮や対応が求められるが、受け入れ経験のある園は少なく、初めての集団生活である保育所・幼稚園生活にあたって保護者の不安も大きい。疾患や病状の理解や受け入れ側の体制整備、医療機関との連携、保護者との密なコミュニケーションが欠かせないが、とくに橋渡しの実践において有効な支援モデルはなく、その時々現場の技量に頼った実践です。LTCの乳幼児期の子ども教育の機会の保障のためには、地域の現状と課題を共有し社会的認知を高めること、臨床および教育の実践家とともにインクルーシブ教育・保育の推進や橋渡しの支援モデルをつくりながら、より良い教育システムのあり方について考えていくことが課題です。

今回助成を受ける事業では、「乳幼児期のLTCの子どもの教育・保育における地域の現状と課題の共有」として、乳幼児期のLTCの子どものインクルーシブ教育・保育をテーマに、横浜市を中心とした地域のLTCの子どもにかかわる関係者を対象に、ワークショップを行い、地域の現状と課題を整理し共有します。

「乳幼児期のLTCの子どものインクルーシブ教育・保育の推進と橋渡し支援モデルづくり」では、「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」を利用して、地域の医療機関や教育機関と連携しながら、LTCの子どもと家族の個別の発達や疾患および病状に応じた遊びや学びを提供しながら、個々のケースに対して関係者と課題を整理し、橋渡しの実践を協力して行います。関係者でプロセスを振り返り、個別のケースの展開に基づき支援モデルを考案します。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

乳幼児期のLTCの子どもの教育および保育の推進に向けて、医療機関と保育・幼稚園の関係者が「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」を活用して実践場面を共有するという取り組みがポイントです。実践例に基づいての支援モデルを考案していけるよう注力したいと思います。

【団体名】

特定非営利活動法人ラ・ファミリエ

【URL】

<http://www.npo-lafamille.com/>

【申請事業名】

病気のある子どもの創作・表現の機会を提供する「こどもアーティスト」ワークショップ

【メッセージ】**①団体の紹介**

ラ・ファミリエ は、病気のある子どもとご家族を支援する団体です。活動内容は大きく2つあり、①病気のある子どもとご家族が入院中・外泊時・外来通院時等に利用する滞在施設『ファミリーハウスあい』の運営、②『地域子どものくらし保健室』にて、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業(愛媛県・松山市委託)をはじめ様々な相談の窓口として、愛媛県内の病気のある子どもとその家族対象の相談支援、就職支援、学習支援、相互交流支援、きょうだい支援等を実施しています。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

新型コロナウイルス感染症により、家族や友人等と会う機会が減少し、孤独感を抱えている病気のある子どもや入院生活や自粛生活では単調な日々のルーティーンの繰り返しで経験不足に陥っている子どもが少なくありません。そこで、自主学習等で不足しがちな学習、言葉以外の自己表現の経験など、子どもたちの成長発達に不可欠な経験の機会として、美術や音楽などの創作・表現活動を病棟内で実施することが必要だと考え、「こどもアーティスト」ワークショップを開催しようと考えました。

2022年度は主に以下の3点に取り組みます。

1. 病院3箇所と当法人事務所内にて、プロのアーティストと協働して人形、絵画、陶芸、立体工作などのアート活動を実施します。
2. アート活動に参加した病気の子どもたち、家族、当法人に登録されている方を対象に、長期療養中の子どもたちや病気のある子どもたちへのアート活動に関するニーズ調査を実施します。
3. 完成した病気の子どもたちの創作物を病院等にて展示会を行います。子どもたちだけでなく、医療関係者やその他病院を訪れる人、不特定多数の方々に見てもらうことで、病気のある子どもたちの創作活動や地域での社会生活の周知理解啓発を図ります。

③事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

アート活動を通して、普段触れない活動に楽しさや面白さを感じたり、言葉以外の自己表現の方法を知ったり、活動に没頭したりすることで、病気の子どもたちが治療に向かうエネルギーを蓄えることができるような機会を作りたいと考えています。子どもたちだけでなく、協働するアーティストさんも医療関係者もみんなが楽しんで生き生きできるような活動を目指します。